

「家庭学習の手引き」

三野中学校

1 はじめに

～子どもの「学ぶ力」「心身の健康」は家庭学習から育ちます～

中学校での学習は、子どもたちが将来社会人として自立していくための基盤となる「学ぶ力」「心身の健康」を育てます。学校は、基礎学力、健康・体力向上のために個々の能力に応じた指導方法の工夫改善を実施しておりますが、家庭との協力体制により、成果を何倍にも高めることができます。もちろん、子どもたちの「学ぶ力」「心身の健康」を育てることは学校教育の重要な役割ではありますが、家庭での関わり方によって、その育ちは大きく変わります。

家庭（保護者）と学校（教師）とが、「家庭学習」を通して協力していくことが、子どもたちの「学ぶ力」「心身の健康」を育てていくのではないのでしょうか。

「学ぶ力」とは、「もっと知りたい」「もっと調べてみたい」「もし・・・だと、どうなるのだろう」「なぜ・・・なのだろう」などと、自分から意欲をもって疑問や課題を見つけ、身につけている知識・技能を生かし、見通しをもって考える力のことをいいます。家庭学習を継続することにより、しっかりとした考え方や集中力だけでなく、学習習慣が身につく、困難なことに出会ってもくじけないで積極的にチャレンジしていく力が備わります

家庭学習の定着は、子どもの主体性や自立性を伸ばし、目的・目標に向かって人生を楽しみ、心豊かに生きる力となって、将来への大きな財産となります。

家庭を「学び」の環境に

～すすんで学ぶ子どもを目指して～

すすんで学ぼうとする力は、子どもが一番安心できる家庭で、安定した生活リズムの中で、毎日継続して学習を積み重ねることで育ちます。また、子どもは、家族に認められ励まされることで、「がんばってよかった」という達成感や「見守られている」という安心感が生まれます。そして、継続して努力することの大切さがわかり、やりとげようとする意欲と自信がでて、自分の夢や希望の実現につながります。

すすんで学ぶためには、「早寝・早起き・朝ごはん」「学習に集中できる環境づくり」「あいさつ」「きまりを守る」などの基本的な生活習慣の確立としつけが大切であり、家庭でのアドバイスや取り組みが重要になってくると考えられます。生活リズムの確立や規範意識・マナーの育成など基本的な生活習慣の確立が「確かな学力」「健康・体力」「豊かな人間性」の土台となります。

子どもの教育は家庭から始まり、子どもたちは、家族との温かい関わりや社会体験活動、自然体験活動を通して多くのことを学び、たくましく成長します。

学校と家庭が協力し合って、子どもの「学ぶ力」「心身の健康」を大きく育てていきましょう。

●家庭が心がけること

- ①生活リズムを整え、決まった場所と時間で
学習に集中できる環境を
- ②がんばりを認め、励まし、対話のある
温かいふれあいを

●学校が心がけること

- ①基礎学力をつけ、学び方を教え、主体性を育てる
学習指導を
- ②子どものよさを生かした
家庭学習の提案を

※ 家庭（保護者）と学校（教師）とが、家庭学習の習慣化を目指して協力し合うことが、子どもの心を耕し、「学ぶ力」「心身の健康」を育てます。子どもの家庭学習が充実するよう、学びの環境を整え、家族の温かいふれあいを増やしていきましょう。

「家庭学習の手引き」の冊子を活用し、家庭学習がさらに充実し、自らすすんで意欲をもって学ぶ子どもに育つように願っております。